

# デジタル機器導入施設 一之江あゆみの園

## 【施設概要】

運営法人: 社会福祉法人 いすず会

所在地: 東京都江戸川区

西一之江3-12-13

対象: 知的障害者

定員: 施設入所支援 36名

生活介護 40名

短期入所 4名



## 1 導入機器

分類	製品名	台数	導入の理由
見守り支援機器	パルモビジョン	7台	・ <b>利用者の転倒防止</b> のため、コールボタンやドアセンサー反応時に居室の状況を確認し訪室の必要性等を判断する。
	パルモバイタルケア	15台	・夜間の睡眠状況や排泄のタイミングを把握して、 <b>利用者を起こさずに済む支援につなげる</b> 。 ・発作データを取得し、医療連携を強化する。
	ふむコール(マットセンサー)	6台	・夜間の <b>トイレ誘導、転倒防止</b> 等を目的に導入。
	おきるコール(離床センサー)	2台	・動作が早い方には離床センサー、他の居室に侵入する方やトイレに行く際、転倒リスクがある方にはドアセンサーを導入。 (パルモビジョンと連動)
	スマートインターホン	4台	・会話ができる利用者を対象に、夜間、コールボタンに連動し <b>会話とカメラを通じて</b> 利用者の状況を把握する。
情報共有端末	Arrows BZ01(スマートフォン)	6台	・利用者の状況を通知等により把握し対応する。
	インカム(Callsign)	6台	・支援員間で、日中・夜間支援時の情報共有、応援要請を行う。
通信環境整備	スマートコールシステム バイタルケア用システム	一式	・Wi-Fi環境を整備することで、各機器をネットワークでつなぎ、情報の一元化を図る。

## 2 実施体制

- ・リーダー:施設長
- ・メンバー:サービス管理責任者・主任2名・看護師・事務長

※様々な職種の職員が参画することで、**多角的な視点で利用者支援に必要な機器の議論ができる体制**をとった。

## 3 課題整理

・既設のセンサーマットは、どのセンサーが反応し、誰が対応しているかの情報が支援員間で把握できておらず、**通知が鳴る度に無駄な訪室**を繰り返していた。

・居室内の利用者がコールボタンを押すと訪室、状況確認をしていたが、支援員室で利用者の様子を把握できず、特に2人体制となる夜勤帯は**訪室の優先順位が付けにくい**。

・居室内での転倒事故や自傷癖のある利用者の傷などについて、居室内で転倒や自傷行為に至った状況の確認ができず、**再発防止に向けた原因分析ができない**。

## 4 導入効果

・パルモビジョンからの**利用者の状況や支援員の支援状況をスマートフォン上で確認可能**となり、訪室の優先順位をつけて対応することが可能となった。

・スマートインターホンの導入により、**利用者の状況**(トイレ介助の要望や水分の訴え等)**を事前に会話とカメラで確認**した上で訪室できるため、支援員の負担が軽減した。

・スマートフォンとインカムの導入により、人を呼ばなくても**その場で即時にコミュニケーションがとれる**ため、応援要請や緊急性の高い対応なども、より迅速に行えるようになった。

## 5 機器導入後の課題と解決策

・パルモバイタルケアについては、誤報もあるため、メーカーと連携して**センサー感度の設定を変更**するとともに、**利用者の睡眠を分析**して夜間巡視の軽減や失禁の改善を図っている。

・インカムはイヤホン部分のコードが支援中に引っかかって外れるなどの煩わしさがあり、**コードレス(Bluetooth対応)や耳から外れにくいイヤホン**に代えることを検討している。